

# 司書資格の取得がもたらす効果： 社会人及び大学新生に対するネットアンケート調査

辻慶太（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科：keita@slis.tsukuba.ac.jp）

芳鐘冬樹（大学評価・学位授与機構 評価研究部：fuyuki@niad.ac.jp）

影浦峽（東京大学大学院教育学研究科：kyo@p.u-tokyo.ac.jp）

大学における図書館情報学教育のあり方を議論する為の基礎データを提供する目的で、以下の6グループ計1,841人にネットアンケートを行った。即ち、大学を卒業し司書資格を（取得し/取得せずに）かつ図書館に（勤務したことがない者/現在勤務している者）、及び大学1・2年生で司書資格の取得を（目指している者/目指していない者）、の6グループである。結果、資格取得者は相対的に収入が低いものの、図書館員の場合は生活に対する満足度が高いこと、仕事上のスキルとして調べ物が得意であること、資格を持つ一般人の方が資格を持たない図書館員よりも図書館用語への理解が高いこと等が明らかとなった。

## 1 はじめに

大学における図書館情報学教育のあり方に関しては、LIPER<sup>1</sup>をはじめ様々な論考がある（柴田（1994）、前川（1995）、朝比奈（2001）、阪田（2002）、根本（2004））。だが学習者数の点で現在上記教育の中心を占めている司書資格に関し、取得者に焦点を当てた実証的な研究は少ない。本研究は、大学における図書館情報学教育のあり方を議論する基礎データを提供する目的で、司書資格は結果として取得者にどのような生活をもたらしたのか、仕事や生活で役に立ったのか、あるいは役に立たなくても図書館への理解は高めたのか、などを明らかにするものである。

調査対象者は以下の6グループである。即ち、(a) 大学を卒業し、司書資格を持ち、かつ図書館に勤務したことがない者、(b) 同じく図書館に現在勤務している者、(c) 大学を卒業し、司書資格を持たず、かつ図書館に勤務したことがない者、(d) 同じく図書館に現在勤務している者、(e) 大学1・2年生で、司書資格の取得を目指している者、(f) 同じく取得を目指していない者、の6つである。<sup>2</sup>

本研究では調査手法として、調査会社のモニターによるネットアンケートを用いた。従来、大学卒業生を対象とした追跡調査は、大学に卒業生の連絡先を聞いても教えてもらえないなど難しい面が多かった。だがネットアンケートでは大学を介さずに、資格の有無など条件を絞り込んで調査対象者を確保することができる。

## 2 関連研究

近年、プライバシーやセキュリティー意識の高まりを受け、従来の社会調査手法は見直しを迫られ

<sup>1</sup> <http://www.soc.nii.ac.jp/jslis/liper/report06/report.htm>

<sup>2</sup> ここで「大学」とは短期大学及び四年制大学を指す。「図書館」とは国立国会図書館、都道府県立及び市区町村立図書館、大学図書館、小中高の学校図書館を指す。また「勤務」の形態としては、正職員、非常勤職員、臨時職員、パート、アルバイトを考えている。司書資格の法的な目的を考えると、調査対象は公共図書館員に限定する方向も考えられるが、本研究では公共図書館と他の図書館には共通する部分も多いと考え、他館種館員も含めることにした。

ている。面接調査や郵送調査の回収率は低下しつつあり（萩原（2001））、サンプル抽出に用いられてきた住民基本台帳は、閲覧を制限されるケースが増えている（本多 & 本川（2005））。そのような中、ネットアンケート（あるいはインターネット調査）は大規模サンプルを迅速・低コストで確保できる点で注目を集めている。ここで言うネットアンケートとは、調査会社が全国からモニターを募集し、ネットを介して回答してもらった調査形態を指す。<sup>3</sup> ネットアンケートについては回答者に偏りがあるという指摘もあるが<sup>4</sup> 上記社会状況と簡便さを受けて、リサーチ業界や学術分野でも利用され始めている。<sup>5</sup>

本研究テーマに従来手法を用いるのは難しく、またインターネットの普及を受けて回答者の偏りは緩和されつつあると考えて、本研究ではネットアンケートを調査手法として採用する。また偏りがあっても、本研究は司書資格を取得した者と取得しなかった者の両方を同じ手法で調査する、いわば同じ土俵の上で両者を比較するものである。従ってそこで得られた異同には一定の意味があると考えている。

## 3 調査方法

調査には Yahoo! Research<sup>6</sup> のネットアンケートを用い、全国50万人以上のモニターから先述の

<sup>3</sup> ネットアンケートの分類は吉村（2001）、大隅（2002）に詳しい。

<sup>4</sup> 本多 & 本川（2005）は、インターネット調査の回答者には、面接調査の回答者に比べて、高学歴、専門・技術職が多く技能・労務職が少ないこと、正社員が少なく非正規従業員が多いこと、労働時間の短い者が多いこと、などを見出している。また同じくインターネット調査回答者には、郵送調査回答者に比べて、就業状態にある者が多く、有配偶者が少ないこと、またインターネットを高頻度で利用する者が多いこと、などの結果も得ている。また大隅（2002）はモニター登録者と実際の回答者には偏りがあるとしている。

<sup>5</sup> 内田（2004）はマーケティング・リサーチ業界の調査手法別売上高構成比において、インターネット調査は1999年度では全体の2%に過ぎなかったのが、2002年度には13%に急増したと報告している。また森田ら（2003）は歯科に関する用語の認知度を、大野ら（2004）は目のかゆみの実態をネットアンケートで調査している。

<sup>6</sup> <http://research.yahoo.co.jp/>

条件に当てはまる者を選別し、回答してもらった。<sup>7</sup> さて先ほどの (c) は性、年齢、短大卒か四大卒か、文系か理系か、という4つの観点に関して (a) とその構成比が同じになるよう回答者を無作為抽出し、調査対象とした。これは上記4要因が (a)(c) それぞれに与える影響を等しくすることで、「司書資格の有無」という要因の影響を相対的に見やすくする為である。同様に (f) は (e) と構成比が同じになるよう回答者を無作為抽出した。(a)(b)(d)(e) は条件に合う者をすべてサンプルとした。<sup>8</sup>

## 4 結果

調査期間は2005年9月22日～30日で、モニター登録者2,282人に回答を依頼した。このうち回答した者は1,856人で、有効回答数は1,841人であった。先ほどの (a)～(f) の人数はそれぞれ (a) 706人、(b) 140人、(c) 343人、(d) 277人、(e) 133人、(f) 242人である。以下では、簡略化のため「大学を卒業し、図書館に勤務したことがない者」は「一般人」、「図書館に勤務している者」は「図書館員」と表すものとする。また一般人と図書館員を合わせて「社会人」と呼ぶことにする。

先ほど、性、年齢、短大卒か四大卒か、文系か理系かの構成比に基づいてサンプルを調整すると述べた。それに関連して述べると、まず性別に関しては、6グループそれぞれの男性人数は (a) 87、(b) 19、(c) 42、(d) 141、(e) 33、(f) 61であった。理系(=理・工・農・医・薬学系学部卒業者)の割合(%)は (a) 1.6、(b) 1.4、(c) 3.3、(d) 27.4、(e) 13.6、(f) 15.7であった。年齢に関しては、社会人グループではおよそ26歳から34歳の間に構成比上のピークが現れた。<sup>9</sup> 短大・四大の別は表2の通りである。

図書館員の館種別構成比としては、司書資格を持つ図書館員では公共図書館員が47.2%、大学図書館員が37.2%を占めた。一方、司書資格を持たない図書館員では公共図書館員は59.2%、大学図書館員は23.4%であった。

### 4.1 生活全体に対する満足度

「全体として、今の生活をどう感じていますか」と尋ねたところ、表1のようになった。表1には、左欄の選択肢を選んだ者の割合(%)が6グループごとに示してある。例えば司書資格を持つ図書館員は57.1%が「かなり満足している」と答えたことが分かる。さて司書資格を持つ図書館員は、生活に満足している者(=「とても満足」+「かなり満足」)の割合が他の5グループよりも有意水準0.05

で高いことが言えた。<sup>10</sup> 一般人の間では、司書資格を持つ者と持たない者との間で、満足している者の割合に有意差は認められなかった。即ち司書資格は、図書館員になった者には生活への満足をもたらすものの、図書館員にならなかった者にはあまりもたらさないことが示された。

回答者を最終学歴で分けた場合、表2のようになった。全般に一般人の間で大きく異なる部分はなかった。一方、図書館員の間では、司書資格を持つ四大卒図書館員は資格を持たない四大卒図書館員よりも、満足している者の割合が有意水準0.05で高いことが言えた。

司書資格を持つ一般人と持たない一般人に関して、後述の職業ごとに満足度を調査したが、両者の間に大きく異なる傾向は見られなかった。いずれのグループでも最も満足度が高いのは「公務員」で、次が「専業主婦・主夫」であった。

図書館員に焦点を当て、身分ごとの満足度を調べたところ、表3のようになった。司書資格を持つ専任正職員は、資格を持たない専任正職員より明らかに満足度が高いことが分かる。また司書資格を持つ「非常勤職員・臨時職員・派遣職員・アルバイト・パートタイマー」の方が、司書資格を持たない専任正職員よりも、満足している者の割合が一見高いが、有意水準0.05では差は認められなかった。

### 4.2 職業・年収・得意なスキル

一般人に対して、会社員、公務員、自営業、自由業、アルバイト・パート、専業主婦・主夫、学生、無職、のいずれに現在属しているかをたずねたところ、司書資格を持つ一般人では持たない一般人よりも「会社員」の割合が低く(37.4%と47.8%)、「アルバイト・パート」の割合は逆に高くなっていった(17.4%と12.5%)。いずれも有意水準0.05で差が認められた。「無職」とする者も前者の方が一見多く(4.0%と2.9%)、司書資格は就職の点で多少問題を感じさせた。ちなみに「専業主婦・主夫」の割合はそれぞれ28.2%、26.2%であった。

先ほどの職業に関する質問に対して、会社員、公務員、自営業、自由業、アルバイト/パートと答えた者に対し、20個の職種を挙げ、いずれに従事しているかをたずねたところ、「出版」「情報(コンピュータ関連など)」と答える者が、司書資格を持つ一般人においてはそれぞれ4.1%、14.7%を占め、司書資格を持たない一般人におけるそれぞれの割合1.3%、11.7%よりも若干高かったが有意な差ではなかった。

上記職業従事者に年収をたずねたところ、司書資格を持つ一般人/図書館員、司書資格を持たない一般人/図書館員の平均年収はそれぞれ約264万円、268万円、301万円、305万円となり、司書資格を持つの方が平均年収は低かった。司書資格を持たない図書館員は、若干年齢が高く、男性と大学院卒が多いが、それらの点が図書館員に関する差を生んだ可能性がある。ちなみに「専業主婦・主夫」と答えた者に対しては配偶者の年収をたずねたが、司書資格を持つ者、持たない者に関して、それぞれ平均576万円、611万円となった。司書資

<sup>7</sup> Yahoo! Research は回答者に謝金を支払っている。2章で触れた問題点に加え、謝金目当てのいわゆるアンケート慣れした回答者の問題を指摘できるが、これについて Yahoo! Research では、銀行口座等による本人確認の上で何回かアンケートに答えた者は一定期間使わないことにしているため、本研究ではその方針の効果を信じる。また本当に司書資格を持っているかなどの確認は行わず、回答者の申告をそのまま信じている問題点も指摘できるが、それについては誤差の範囲内と考える。

<sup>8</sup> (d) を (b) に基づいて調整しなかったのは、(d) は元々のサンプルが少なく、そこからの無作為抽出による調整が難しかった為である。

<sup>9</sup> これは現実の司書資格取得者や図書館員の年齢構成とは乖離しており、今回の調査手法上の限界を示しているとも言える。

<sup>10</sup> 性別に見た場合、男性図書館員の満足度が一見高かったが、サンプルが少ないため、女性図書館員との有意差などは認められなかった。

格は全般にあまり高い収入はもたらさないことが考えられる。

現在働いている者に対して、(A) 調べ物や情報の収集、(B) 傾向やパターンの発見といった情報分析、(C) 企画・戦略の立案、(D) コミュニケーションや対人交渉、(E) 人員配置・コスト管理などの経営マネジメント、の5つを挙げ、それぞれについてどの程度得意かをたずねた。表4には「非常に得意である」と答えた者の割合(%)を示してある。全般に司書資格を持つ者は持たない者に比べ、(A)の「調べ物や情報の収集」が非常に得意と答える者が多かった。一般人においては四大卒同士で有意水準0.05で差が認められた。図書館員においては短大卒同士で同じく差が認められた。

調べ物ができた時どのように調べるか、選択肢を7つ挙げ複数回答可でたずねたところ「図書館の本で調べる」という選択肢を選んだ者の割合は、司書資格を持つ一般人では51.8%、持たない一般人では34.1%で、前者の方が有意水準0.05で高いことが言えた。またデータベースやベンダーを15個挙げ、最近半年以内に使ったものをたずねたところ、朝日新聞記事データベース「聞蔵」、帝国データバンクの「COSMOS」、国会図書館の雑誌記事索引の3つに関して、司書資格を持つ一般人の方が「半年以内に使った」と答える者の割合が有意に高かった。司書資格は一般人に対して、図書館の利用やデータベースの利用という調べ物スキルを与えている可能性が高い。

#### 4.3 図書館への理解

司書資格の取得は、図書館への理解を高めたかを調べる為、いくつかの調査を行った。まず図書館用語として表5の左欄に挙げた20語を回答者に示し、それぞれの用語について「よく知っている」「聞いたことはある」「聞いたことがない」の3段階で評価してもらった。表5にはこのうち「聞いたことがない」と答えた者の割合(%)を示してある。卒業後年数が経って忘れた可能性を考え、社会人については2002年度～2004年度に卒業した者(即ち、本研究の調査時点から過去3年半以内に卒業した者)と全体の2種類を考えた。

全般に司書資格を持つ図書館員は、他のグループに比べて、図書館用語の認知度が高かった。一方、司書資格を持たない図書館員は、43.7%が「レファレンスサービス」を、70%以上が「納本制度」「ILL」「図書館の自由に関する宣言」を聞いたことがないと答えるなど、全体に用語に対する認知度が低かった。司書資格を持たない図書館員と、司書資格を持つ一般人とで用語の認知度を比較すると、すべての用語において、前者の方が認知度が低かった。司書資格取得は図書館現場で働くよりも図書館用語に詳しくさせるという意味で、知識面での効果があると感じさせる。

大学1・2年生で司書資格の取得を希望している者と、司書資格を持つ社会人とを比較すると、全般に後者の方が用語の認知度が高い。前者を、司書資格取得教育への入力、後者を出力とみなすと、司書資格の取得は、用語に関する認知度を上げていると考えられる。

先ほどの「ILL」や「レファレンスサービス」といった用語に関する結果は、単に言葉を知らなかっただけという可能性も考えられる。そこで、図書館で以下の2つのサービスが行われていることを

知っているかもたずねた。即ち、(1)「書架にない本を希望すると、他の図書館から借りてきて提供してくれるサービス」、(2)「PFIに関する本はあるか?」「<木天蓼>は何とよむか?」といった質問に図書館員が答えてくれるサービス、の2つである。結果、司書資格を持たない図書館員の24.2%は(1)について「そのサービスは知らなかった」と回答し、50.9%が(2)について知らなかったと回答している。従って先ほどの結果は、単に言葉を知らなかったからとは言えないことが分かる。ちなみに司書資格を持つ一般人では、これらの割合はそれぞれ8.8%、28.6%であった。司書資格を持たない図書館員よりも、司書資格を持つ一般人の方が、図書館サービスについて理解が高い可能性がある。

#### 5 おわりに

司書資格を取得することの効果調べる目的で、本研究では資格を(持つ/持たない)(一般人/図書館員)と、大学1・2年生で資格取得を希望(する/しない)者に対してアンケート調査を行った。本研究の結果、司書資格は図書館員には生活上の満足をもたらすこと、全般に調べ物のスキルを与えること、図書館用語に対する認知度を上げるという意味で図書館への理解を高めること、などが明らかとなった。今後は図書館員に関して館種別の分析を進め、また図書館情報学専門課程を卒業したか否かといった大学・コース別の分析を進めたい。

#### 参考文献

- [1] 朝比奈大作(2001)「司書課程の教育内容：新時代の司書養成を目指して」現代の図書館, vol.39, no.1, p.4-9.
- [2] 内田哲郎(2004)「日本のリサーチ業界事情 第28回経営実態調査結果報告 調査事業売上高の増加維持：インターネット調査が急増、環境変化に拍車」マーケティング・リサーチャー, vol.97, p.63-81.
- [3] 大隅昇(2002)「インターネット調査の適用可能性と限界：データ科学の視点からの考察」行動計量学, vol.29, no.1, p.20-44.
- [4] 大野重昭, 高村悦子, 海老原伸行(2004)「Webアンケートを用いた「眼のかゆみ」に関する実態調査」アレルギー・免疫, vol.11, no.12, p.1636-1646.
- [5] 阪田蓉子(2002)「司書養成と司書課程」図書館文化史研究, vol.19, p.111-131.
- [6] 柴田正美(1994)「これからの図書館学教育：大学における図書館学教育と専門性」みんなの図書館, no.202, p.13-18.
- [7] 根本彰(2004)「日本の図書館員養成とLIPERの課題」図書館雑誌, vol.98, no.12, p.895-897.
- [8] 萩原雅之(2001)「インターネット調査の現状と課題」社会情報, vol.11, no.1, p.129-137.
- [9] 本多則恵, 本川明(2005)『インターネット調査は社会調査に利用できるか：実験調査による検証結果(労働政策研究報告書: No.17)』労働政策研究・研修機構, 369p.
- [10] 前川恒雄(1995)「司書養成教育と図書館学」図書館界, vol.47, no.3, p.106-110.
- [11] 森田一三, 外山敦史, 熊谷法子, 福沢歌織, 山本恭子, 中垣晴男, 立松正志, 川口豊造(2003)「インターネット調査による歯科に関する用語の認知と個人属性の関係」口腔衛生学会雑誌, vol.53, no.3, p.211-220.
- [12] 吉村幸(2001)「インターネット調査にみられる回答者像、その特性」統計数理, vol.49, no.1, p.223-229.

	司書資格あり		司書資格なし		大学1・2年生	
	一般人	図書館員	一般人	図書館員	取得希望	希望せず
とても満足している	3.4	5.7	4.7	6.1	5.3	2.9
かなり満足している	44.6	57.1	42.6	41.2	36.8	40.9
あまり満足していない	46.0	36.4	46.9	45.5	49.6	50.0
まったく満足していない	5.9	0.7	5.8	7.2	8.3	6.2
N	706	140	343	277	133	242

表 1: 生活に対する満足度

	司書資格あり						司書資格なし					
	一般人			図書館員			一般人			図書館員		
	短大卒	四大卒	院・他	短大卒	四大卒	院・他	短大卒	四大卒	院・他	短大卒	四大卒	院・他
とても満足している	3.2	3.7	0.0	0.0	7.8	0.0	3.3	5.7	0.0	9.7	4.9	6.3
かなり満足している	40.9	46.9	41.7	50.0	59.2	57.1	39.2	44.8	38.5	48.4	38.8	40.6
あまり満足していない	51.0	42.8	54.2	50.0	32.0	42.9	50.0	44.8	53.8	35.5	49.2	43.8
まったく満足していない	4.9	6.7	4.2	0.0	1.0	0.0	7.5	4.8	7.7	6.5	7.1	9.4
N	247	435	24	30	103	7	120	210	13	62	183	32

表 2: 最終学歴で分けた場合の満足度

	司書資格を持つ図書館員			司書資格を持たない図書館員		
	専任の正職員	兼任の正職員	非常勤・パート等	専任の正職員	兼任の正職員	非常勤・パート等
とても満足している	8.0	25.0	3.5	6.3	17.1	4.3
かなり満足している	66.0	75.0	51.2	31.3	48.6	41.4
あまり満足していない	26.0	0.0	44.2	62.5	31.4	45.2
まったく満足していない	0.0	0.0	1.2	0.0	2.9	9.0
N	50	4	86	32	35	210

表 3: 身分別で見た図書館員の満足度

	司書資格あり						司書資格なし					
	一般人			図書館員			一般人			図書館員		
	短大卒	四大卒	院・他	短大卒	四大卒	院・他	短大卒	四大卒	院・他	短大卒	四大卒	院・他
(A)	19.7	30.5	52.6	36.7	34.0	28.6	19.7	22.0	33.3	17.7	24.6	17.9
(B)	7.9	12.1	31.6	10.0	17.5	28.6	9.2	12.8	41.7	12.9	14.9	17.9
(C)	2.6	4.9	5.3	3.3	9.7	14.3	3.9	5.5	41.7	9.7	7.4	14.3
(D)	7.9	8.2	0.0	20.0	11.7	0.0	14.5	11.6	25.0	21.0	14.9	14.3
(E)	1.3	3.0	0.0	3.3	11.7	14.3	2.6	3.7	8.3	4.8	4.6	3.6
N	152	305	19	30	103	7	76	164	12	62	175	28

表 4: 仕事において得意なスキル

	司書資格あり				司書資格なし				大学1・2年生	
	一般人		図書館員		一般人		図書館員		取得希望	希望せず
	全体	'02 ~ '04 卒	全体	'02 ~ '04 卒	全体	'02 ~ '04 卒	全体	'02 ~ '04 卒		
酸性紙	29.3	29.3	11.4	12.5	46.4	33.3	43.3	46.6	37.6	47.5
ISBN	21.1	8.0	2.1	0.0	61.5	45.2	48.0	50.0	26.3	55.4
納本制度	46.3	33.3	8.6	8.3	86.0	78.6	71.5	72.4	63.2	83.5
指定管理者制度	63.6	58.7	22.1	25.0	78.1	78.6	67.1	72.4	65.4	76.4
子どもの読書活動の推進に関する法律	48.9	33.3	9.3	12.5	71.7	64.3	63.5	65.5	50.4	75.2
アーカイブ	8.4	4.0	2.9	4.2	13.7	7.1	17.0	17.2	10.5	21.5
OPAC	47.7	10.7	2.9	0.0	68.2	47.6	55.2	50.0	27.8	52.1
ILL	72.9	40.0	13.6	4.2	91.3	85.7	76.5	77.6	71.4	87.2
相互貸借	33.6	10.7	2.1	4.2	71.7	69.0	60.3	62.1	48.9	72.3
レファレンスサービス	9.1	1.3	0.7	0.0	47.8	35.7	43.7	48.3	22.6	46.7
SDI サービス	77.3	65.3	39.3	37.5	89.2	85.7	81.6	75.9	76.7	87.2
中小レポート	65.7	34.7	25.7	20.8	83.4	85.7	78.7	70.7	69.2	87.6
書誌コーディネーター	49.4	16.0	12.9	0.0	84.0	81.0	74.0	65.5	62.4	81.8
ランガタンの図書館学5法則	56.4	32.0	16.4	8.3	94.8	92.9	85.6	81.0	76.7	95.5
図書館の自由に関する宣言	34.7	18.7	5.0	0.0	91.0	90.5	73.6	70.7	57.9	90.5
ファームントプラン	78.6	61.3	45.0	37.5	95.6	92.9	87.4	81.0	83.5	94.2
船橋市西図書館の蔵書廃棄事件	68.8	44.0	17.9	8.3	89.8	92.9	80.1	77.6	80.5	89.3
ドキュメントデリバリーサービス(DDS)	72.9	54.7	30.0	25.0	91.8	90.5	82.7	81.0	79.7	94.2
山中湖情報創造館	88.4	80.0	57.1	66.7	98.0	100.0	89.9	86.2	86.5	95.5
上級司書	61.9	57.3	35.0	37.5	72.0	76.2	71.8	53.4	65.4	77.7
N	706	75	140	24	343	42	277	58	133	242

表 5: 各図書館用語に関して「聞いたことがない」と答えた者の割合